

腋芽が少なく栽培しやすい、5月収穫の寒玉系品種

(カネコ交配)

キャベツ

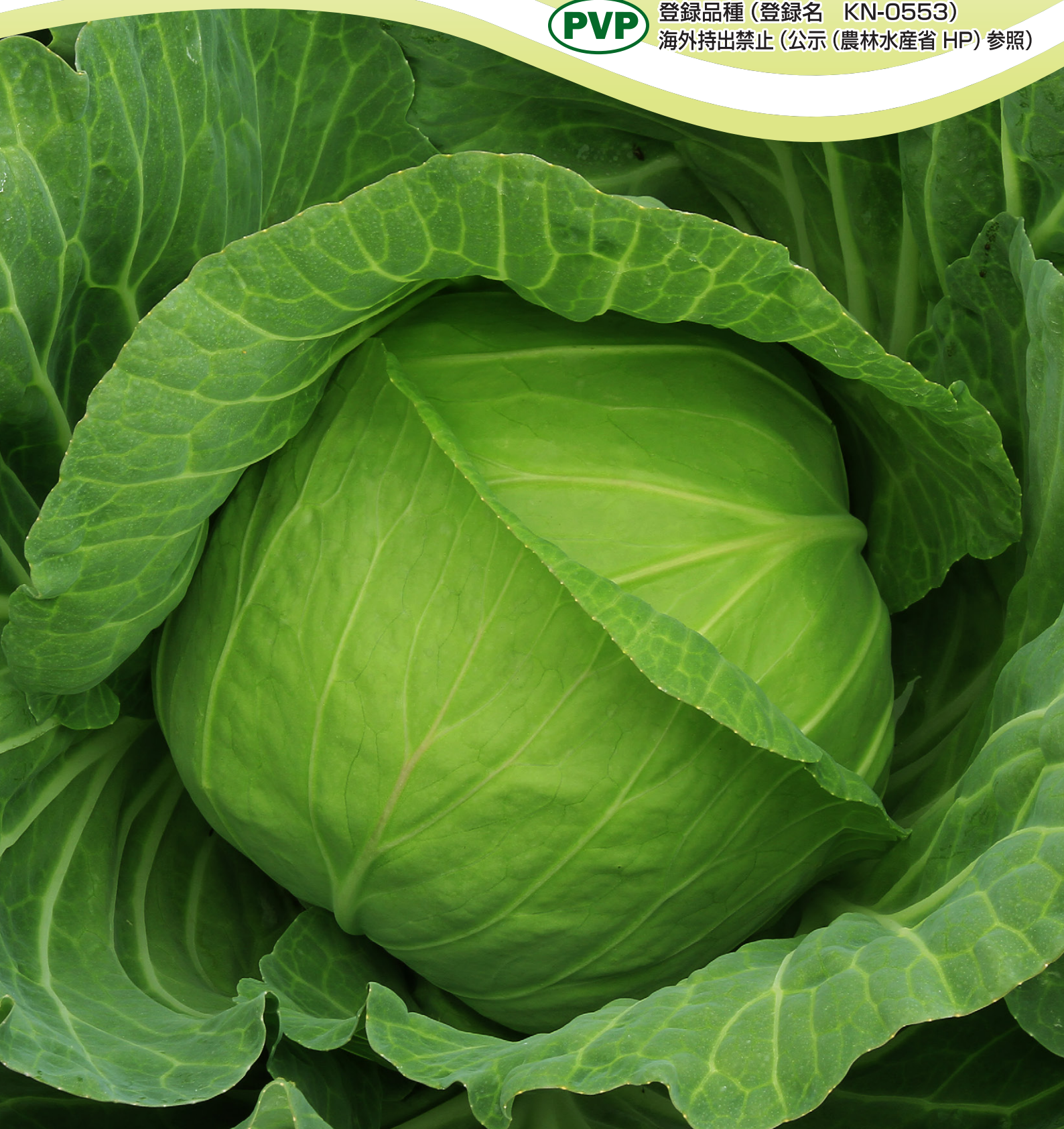
しん
新

りょく
緑

Cabbage, Sinryoku Hybrid



登録品種 (登録名 KN-0553)
海外持出禁止 (公示 (農林水産省 HP) 参照)



カネコ種苗株式会社

TEL. 027 (251) 1611 (代)

腋芽が少なく栽培しやすい、5月収穫の寒玉系品種

(カネコ交配)
キャベツ

Cabbage, Sinryoku Hybrid

しん りよく
新 緑

(PVP) 登録品種(登録名 KN-0553)
海外持出禁止(公示(農林水産省 HP)参照)

●特性●

- (1) 中間地の10月中旬播種で5月下旬に収穫が可能です。暖地では10月下旬播種で5月上旬に収穫可能です。
- (2) 球は鮮緑色の扁円形で球尻まで緑色となり、市場性に優れます。球締まりが良く、球重は1.5kg程度に良く揃います。
- (3) 外葉は半開帳でコンパクトに揃います。また、越冬時のストレスで発生しやすい腋芽が少なく栽培が容易です。
- (4) 葉はやや厚めで、葉質もしっかりしているので、千切りやカット用途にも対応できます。また食味も良好で生食用から加熱用まで様々な用途に適します。
- (5) 萎黄病にAタイプの抵抗性があります。

●栽培要点●

(1) 播種・育苗

播種・定植を早めると抽苔する場合がありますので、播種期・定植期をきちんと守ります。苗床の風通しを良くして、しっかりした苗を育てるようにします。定植前には十分な順化期間をもうけて、寒さに慣らします。軟弱な苗は、定植後に寒さによる枯れの原因となります。

(2) 肥培管理

やや多肥栽培が適します。畑の状態に応じて加減しますが、目安として10aあたり窒素18~22kg、リン酸20~25kg、カリ18~22kgを基準に栽培します。年内定植では追肥主体とし、元肥で全体の半分程度を施肥し、暖かくなる時

に肥料が効くように1月下旬~2月上旬頃に残りを追肥します。早春定植では元肥主体の肥培管理が適します。収穫期まで肥効が続くと裂球の原因となるので、結球開始後の追肥は避けます。

(3) 栽植密度

栽植密度は畝間55~60cm、株間35~40cmを標準とします。

(4) 防除

生育期とアブラムシの発生時期が重なります。一度球の中に入り込むと防除しにくく商品価値を著しく損なうため、アブラムシが発生したら直ちに防除を行います。菌核病は、低温期に降雨があると菌糸が発生・感染するため、暖かくなり始めた頃から薬剤散布を行い予防防除に努めます。

(5) 収穫

初夏どりは生育が早く、収穫遅れが生じやすいので、計画的な作付けを行います。播種・定植を数回に分け、収穫時期をずらすことで安定出荷が可能です。

●栽培作型●

中間地の10月中旬~2月播種の5月下旬~6月上旬収穫に適します。暖地では10月下旬~1月播種の5月収穫に適します。

	10	11	12	1	2	3	4	5	6
中間地	○	○	×		○	×		▨	▨
暖地	○	○	×		×	×		▨	▨

○ 播種期 — 生育期 ▨ 収穫期

カネコ種苗株式会社

〒371-8503 前橋市古市町1-50-12
TEL. 027(251)1611(代)

一般社団法人
日本種苗協会
登録番号 10-001号

取扱店